

「日本人ファースト」排外主義への賛同 参議院選挙で変わる国会

日退教通信

No. 420

2025.10

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六―二 日本教育会館6F
発行責任者 平岡良久
TEL 03(5275)2197 FAX 03(5275)2081
E-mail nitaikyoo@gmail.com ホームページURL <http://www.nitaikyoo.com>

「日本人ファースト」を主張する排外主義政党が躍進した参議院選挙、自民・公明両党が票を伸ばしきれない中で、国民民主党や参政党が躍進しました。その中で、日政連は水岡俊一さん（比例代表）、勝部賢志さん（北海道選挙区）、小島とも子さん（三重県選挙区）が当選しました。与党の過半数割れ、自民党総裁選、憲法改正を是とする野党勢力の伸長、今後の国会の混乱が予想されます。当選された日政連議員の皆さまの今後の抱負を聞きました。

今後の国会議論に注目を！

日政連国会議員団会長・
参議院議員 みずおか俊一

日退教通信をご覧のみなさま、こんにちは。日政連国会議員団会長、参議院議員のみずおか俊一です。いつも私たち日政連議員の政治活動に温かいご声援を誠にありがとうございます。日々、日退教のみなさまが献身的に活動されていることに心より敬意を表します。先日おこなわれた参議院議員選挙では、昨年の衆院選に引き続き、与党が過半

数を割り込みました。

参院選に先立つ今年の通常国会では、今年度の予算案が憲政史上初めて、参議院での修正、衆議院の同意を経ての成立となりました。これも衆院選での野党の勝利があつてのことです。

また、30年ぶりに衆議院の予算委員長に野党議員（立憲民主党の安住淳議員）が就任しています。

このように国会の風景は衆院選を経て少しずつ変化していましたが、今回衆参ともに与党が過半数割れの結果になったことから、野党の声が国政により届きや

すくなりました。国会の雰囲気さらに変わります。参議院でも少しずつ動きがあります。まず、私たちの悲願である文教科科学委員長のポストを与党から奪還したことは、一つの大きなトピックです。

政党や会派が増え、国会運営は一筋縄ではいかない状況でもあります。これらの国会での議論にどうぞ注目いただければ幸いです。

そして、このたびの参院選では、三重県で新たな日政連議員である小島とも子さんの初当選、北海道の勝部けんじさんの2期目当選、そして比例代表では私のみずおか俊一が4期目の当選を果たすことができました。日政連議員は参議院5名、衆議院3名の新たな布陣でみなさんからいただいた負託にお応えするべく、山積する「教育」「くらし」「平和」

の課題解決に全力でとりくみます。引き続きのご声援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、日退教の今後ますますのご発展、会員のみなさまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。これからも、ともにがんばりましょう！



支援者と再選を喜ぶ水岡参議院議員

決意を固めて、
自民党に変わる国民民主党を！

日政連国会議員団・
参議院議員 勝部賢志

酷暑の中の参院選、多くの仲間・支持者の皆さんのお力で議席を守る最低限の役割は果たすことができ胸をなでおろしています。

全体結果は周知の通り自民党は大きく議席を減らし参院でも少数与党に。わが党も与党不信の受け皿となれず横ばい。ともに敗北・実質的敗北と選挙総括を行なったところ

です。
「終コン」と称された両党総括は、SNS・ネット対策強化や「わかりやすい」「刺さる」「エッジの効いた」発信が必須との共通部分も。しかし違和感を覚えざるを得ません。白黒二元論で敵をつくるから「わかりやすい」、ワンイシューでターゲットを絞るから「刺さる」、(常識外れで)他が口にしないから「エッジが効く」のであって、その行きつく先はトランプ大統領。SNS・ネットを与件としながらもそのデメリットをいか

に中和・最小化するのかより困難な課題が問われているのだと考えています。

多党化・新党ブームは83年参院比例代表制導入が制度的に生んだもの。福祉党・サラリーマン新党、93年総選挙での日本新党・新生党・新党さきがけなど嚆矢に数多の新党が誕生消滅してきました。「終コン」のコンテンツとは使い捨てマスマーケットの「埋め草」、直近では「石丸新党」の浮沈に見る通り。口にされた方が唇寒しとならぬよう祈念するばかりです。

さすがと言うべきか自民党はその総括文書を「わが党は、ターゲットを絞ったリ、ワンイシューで勝負する政党ではなく、常に単独過半数を目指して国民全体と向き合う政党」「国家運営の全体像、将来像を常に見据える責任政党」と結んでいます。政治とカネの問題一つ解決してこなかった「既成政

党」批判は自民党とともに正面から受け止め、まず隗より始めなければならぬのは当然のこと。その上で自民党に代わり得る国民民主党・責任政党としての「コンテンツ」である政治理念・政策のブラッシュアップ、組織基盤づくり・人づくりに、与えていただいたこれからの6年間全身全霊を込め取り組んでいきたいと決意を固めています。



選挙期間中、政策を訴える勝部参議院議員(北海道)

学校教育、そして子どもに関わってきた国会議員として

日政連国会議員団・
参議院議員 小島とも子

三重県選挙区より選出いただきました参議院議員の小島とも子と申します。中学校で約25年、その後、三重県議会議員として14年務めてまいりました。そして今回、参議院議員として教育に関わる立場を得ました。しっかりと子どもたちの声、現場の声を聞きながら働いてまいりたいと思います。

教員として、校内暴力をはじめとする「荒れ」と向き合い、管理的教育の限界、部活動ではつながり切れない実態、背景を丸ごと理解し、「同和教育」をすすめる必要性などを感じながら働いてきました。しかし、学校は「サービスの提供者」として過酷とも思える内容を負わされ、結果子どもたちを遠ざけ、働く人もまた疲弊している状況です。人の不足が画一的、管理的な学校教育への回帰を生んではいないか？子どもの権利条約にある「すべては子どもの最



初当選の小島参議院議員(三重県)

善の利益のために」という理念の実現に、学校のすべての教育活動が結びついているのか？子ども達がそれぞれの自立(自律)に向かい、「生きる力」を真につけるにはどうしたらよいか？様々な問いを立てながら、子どもと共にある人々の条件整備、教育内容・時間・賃金などをどう見直すか、議論し、提言し、実現に向けて理解を得ていく活動です。

県議会議員として、子どもの居場所づくりを推進するNPOに関わってきました。そこは三重県「子ども食堂」第1号で、県内では160を超える様々な形態の「子ども食堂」へと広がりを見せています。しかし一方、10代の子どもたちの居場所が十分でない、家庭や学校への帰属意識や将来への希望を持ちづらく、時には命にさえ執着しない状況を活動の中で経験してきました。特に不安定な時期、措置まではいかないけれど、家庭とは違う安全安心な場所が必要であると強く感じています。さらに「幼少期逆境体験(ACE)」の影響をしっかりと調査し、子どもの育ちを全人的に把握して自死の予防につなげたいと考えます。

子どもの命を守り、教育現場で働くすべての人が生き生きと生きられるよう、具体の法改正、法整備への道筋を見出すべく、国会議員として精進してまいります。

竹田会長勇退 2025年度

地公退総会開催される

今年度の地公退総会は7月25日、東京グリーンパレスで開催されました。日退教からは藤本泰成、松田秀子、八木幹夫、山口正人、畠山幸子、石川博の6名が参加しました。退女教の朝倉康子さんが議長を務め、古賀ちかげ参議院議

員・水岡俊一参議院議員が日政連を代表して挨拶をしました。

竹田邦明会長挨拶

今日の参加者を見ても、女性代議員が多く参加してきており、地公退としてもジェンダー平等を進めてきた現れかとみている。

参議院選挙が終わり、構成組織からは水岡さん、郡山さんのお二方が比例で当選となった。選挙運動をしてきた方、1票を投じてくれた方にもまずはお礼を言いたい。

今年度は戦後80年、地公退ができて50周年で地公退としても何かできないかということ、で、「沖縄行動」を行った。沖縄の戦後と本土の戦後は決して同じではないということ、は、戦後責任の取り方として大事な視点ではないか。そのひとつとして、毎年行っている総務省交渉の中で、共済年金の被用者年金一元化に伴い、本土と沖縄の4年間のズレ(4年間多く削減される)をなんとか解消できないかと訴えている。

今回の選挙ではデジタルの

問題が明らかになった。(マインナ保険証推進に伴い後期高齢者保険証と全く同じ文言の資格確認証が届く。)アルゴリズムが広がるなかで、外国にルーツを持ち日本国籍を取得した人が、参政党に投票するということ。小中高等学校に多数の外国籍の子どもが在籍する状況で日本人ファーストとは言えないはずだ。デジタル社会は避けようもないが、AIで動いていけば電力をものすごく使い、原子力発電所を作るといふ話にも繋がっている。地公退ニュースは全員に行き渡ってはいないが、その内容が拡がり、判断材料となるような運動を作っていきたい。

今日の総会で会長を退職することになる。現職の時は対立していた時代もあったが、退職者になって垣根が無くなった。一緒に運動を進めるなかで、つきあいのなかで喜びがあった。それがなければ運動は続かないのではないか。地公退の運動がますます発展することを祈念して挨拶とす

退任に当たって、

仲間の皆さんに感謝

竹田邦明

第51回定期総会において会長を退任いたしました。任務は6月末まで務め、その後は参議院選挙における水岡俊一候補（比例代表・当選）の後援会活動、さらに地公退総会を終え、すべての担当を終了いたしました。2009年に日退教事務局次長に就任以来16年間、全国の仲間の皆さまと共に活動できましたことを、心より感謝申し上げます。

この総会とともに退任された松淵昂事務局長、福井英利会計監査（徳島）は、私と同じく2009年度から16年間役員を担っていただきました。また、坂田勲副会長（富山）、池田敬子副会長（兵庫）、鍋島初美副会長（福岡）のご尽力により、組織活動交流集会の運営、ジェンダー平等の推進、沖縄・東北での学習交流、50周年記念行事など多くの成果をあげることができました。在任中にお亡くなりになられた副会長の清水史朗さん（北海道）、佐藤昌二さん（新

潟）、林秀彦さん（北海道）、本村富美子さん（東京高・2022年9月逝去）、事務局次長の日高邦夫さん（2019年逝去）に、深い感謝と哀悼の意を表します。

本村さんは日退教のみならず日本退職者連合においてもジェンダー

平等の推進に尽力され、その功績を強く記録にとどめたいと思います。

戦後80年の今年、参

議院選挙では教育現場の声を届ける議席を守ることができましたが、

政治状況は混

沌とし、憲法と社会

保障の未来が危ぶま

れています。課題は山積

しています。が、全国の仲間の交流

と連帯で運動をさらに発展させ、より良い社会を追求していくことを心から期待し、退任のあいさつといたします。長年にわたり、本当にありがとうございました。



退任あいさつをする竹田前日退教会長

◆ 編集後記 ◆

今夏の参議院選挙のトピックは、なんと言っても参政党の躍進だろう。「日本人ファースト」を謳って、在日外国人批判を繰り返して、排外主義を進めだした。多くの主張が事実に基づかない誤ったものだ。しかし、票は伸びた。彼らが2年間議論して作成したという「新日本憲法（構想案）」なるものを見た。国を守る義務が課されている。神谷党首は「国を守る」徴兵と考える思考が我々には理解できません」と述べているが、じゃ、具体的に「国を守る」とは何なのか。自衛軍の規定に軍事裁判所が設置されているが、徴兵でないなら、これは自衛官のみにもつぱら適用されるのか。「それはないよね」と声が出る、理解しがたいのは私たちだ。

藤本泰成